

「もりづくり」って何！？

～木を使うことと森林との関係～

人がつくった森林は、手入れが必要です！

滋賀県には、人が苗木を植えて育てたスギやヒノキなどの人工林とよばれる森林が、全体の約40%あります。

植えた木が大きくなると、隣どうして木の枝や葉が重なりあい、林の中に日光があたりなくなります。そうすると、木の成長がおとろえ、ひ弱な木ばかりになってしまいます。そこで、木の成長をよくするために、木の本数を減らす「間伐(かんばつ)」などの木をきる作業が必要になります。

間伐などによって、林の中に光が入り、下草が生え、生き物がたくさんすむ森林をつくることのできるのです。そして、健全に育った森林が、森林のチカラを十分にはっきけるのです。



木をきることは自然破壊と思っていませんか？

木の成長を無視していっぺんにきることは問題ですが、木をきること自体は自然破壊ではありません。木はきったら植えるという適切な作業を繰り返すことで、再び成長して大きくなり、森林がなくなることはありません。つまり、石油や石炭と違って、木材はなくならない資源として、未来の私たちの生活を支えてくれるのです。

環境にやさしい木材を積極的に使おう！

木の柱は、鉄やアルミを作るよりずっと少ないエネルギーで作ることができます。また、遠く海外から木材を運んで来るよりも、近くの山から木材を運ぶ方が少しのエネルギーですみます。つまり、近くの山の木を積極的に使うことで、森林づくりがすすむと同時に、よりよい環境づくりにつながるのです。